

甲斐市立竜王南小学校 自己評価書

平成30年2月1日 (木) 作成

校長 「 遠藤 建生 」 記述者 職名 (教諭) 「 久保田 勲 」

学校教育目標

「楽しい学校 (楽校) の創造ーやる気 こん気 げん気ー」

学校経営目標

- ・知・徳・体の調和のとれた「生きる力」をはぐくむ信頼される学校づくり
- ・家庭・地域・社会と交流・協力を図る開かれた学校づくり
- ・楽しい授業・居心地のよい集団・けじめのある生活・安心安全な環境を追究した活気ある学校づくり
- ・特色ある教育活動を展開する魅力ある学校づくり

学校経営の基本

- ① 「生きる力」をはぐくむ, 教育課程の編成と実施
- ② 「確かな力」をはぐくむ, 楽しくわかる授業の創造
- ③ 思いやりの心や情操を培い, 「豊かな心」をはぐくむ, 居心地のよい学校 (集団) の創造
- ④ たくましく生きるための「健康な体」をはぐくむ, 健康・安全な生活と環境の創造
- ⑤ 「信頼される開かれた学校づくり」の推進

1 全体評価

自己評価結果は, 高い水準にあるといえる。

IV「生徒指導について」, VI「学校の特色に関して」では, 肯定的評価 (A・B) で100%となっている。I「学校教育目標・学校経営について」, II「学校運営について」, III「学習指導について」, V「地域との連携について」でも肯定的評価 (A・B) で90%を越えている。設問別に見ると, 54問中44問が肯定的評価で100%となっている。「ややそう思わない」Cをつけた設問が9問みられるが, 全て回答数1または2であるので全体的に見て高い自己評価といえる。

また, 児童アンケートについては, 23問中 (勉強時間・就寝時間・読書時間の設問以外) 21問で肯定的評価 (A・B) が80%以上を占めている。このことから, 児童が概ね満足していることがうかがわれる。特に「先生はよく勉強を教えてくださいますか」については98.8%の最高値を示している。

一方, 「授業中に意見や質問を言っていない」「家の人と学校での様子を話していない」「今住んでいる地域の行事に参加していない」については, D評価回答の児童が5%以上いることに着目しなければならない。

2 項目ごとの評価結果 (達成状況・改善策)

I 学校教育目標に関して・学校経営について

達成状況
学校教育目標・学校経営についての自己評価8問中7問で肯定的評価 (A・B) が100%となった。特に, 「2 あなたは, 学校経営方針に基づき, 教育活動を行っている。」「3 あなたの学校は, 学年の教育活動計画が教育目標や重点目標を踏まえたものになっている。」「8 あなたは, 児童の具体的な行動目標を意識して教育活動を行っている。」については昨年度より A 評価の数値が向上している。職員会議等を通して, 教職員が校長の示す学校教育目標や学校経営方針を具体的に理解し, 日々の教育活動に生かす取組を行ってきた結果と思われる。

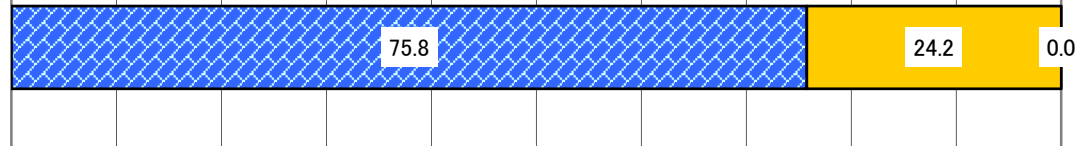
I-2 あなたは、学校経営方針に基づき、教育活動を行っている。

H28



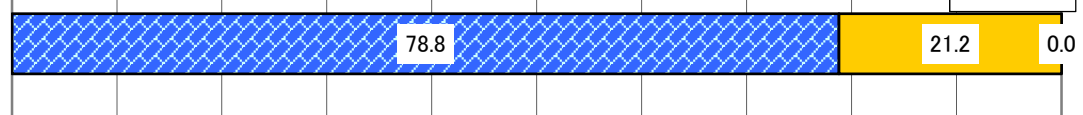
■A そう思う ■B ややそう思う ■C ややそう思わない ■D そう思わない

H29

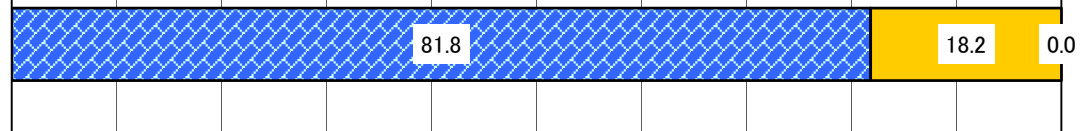


I-3 あなたの学校は、学年の教育活動計画が、教育目標や重点目標を踏まえたものになっている。

H28

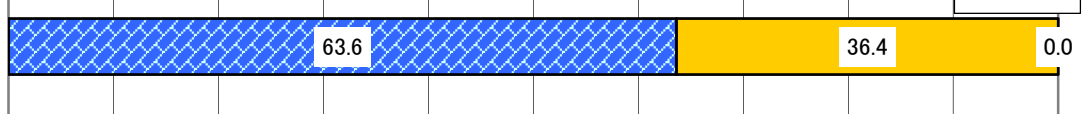


H29

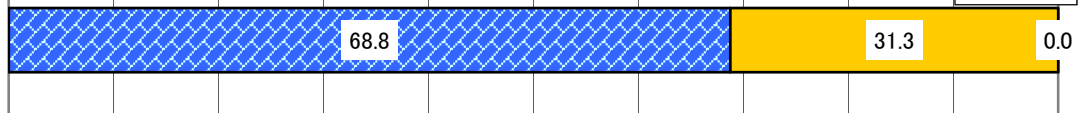


I-8 あなたは、児童の具体的行動目標を意識して教育活動を行っている。

H28



H29



改善策

自己評価から、「6 あなたは、P→D→C→Aサイクルを生かした教育活動を行っている。」は、A・Bで100%となっているもののA評価は54.5%となっていて、昨年度の63.6%より低い値である。日々の教育活動全てでP→D→C→Aサイクルを確立することはなかなか難しいが、教育活動の良さは継続し、反省点は改善しながら教育活動の質を高めていくためにも、教育活動チェックリストを作成するなどして、教職員一人一人がP→D→C→Aサイクルを意識し、努力していくことが必要である。

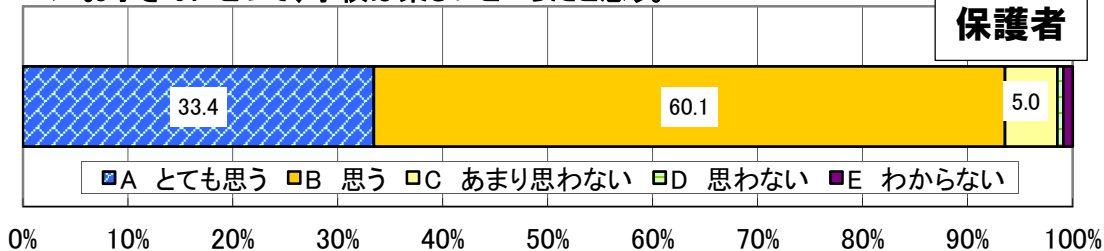
II 学校運営について（保護者用アンケート等も含めて）

自己評価では、11問中7問で肯定的評価（A・B）が100%となっている。特に、「7 あなたは、職務上『報告、連絡、相談、確認』を行っている。」は、A評価が、80%を越えている。一方、「2 あなたは、危機管理（防犯、防災、事件、事故等）マニュアルを理解している。」「あなたの校務分掌は、学校運営上機能している。」「5 あなたは、職員会議に、積極的に関わっている。」「8 あなたは、校内研究（研修）に主体的に関わっている。」は、A評価が60%以下となっており、比較的B評価が多い結果になっている。

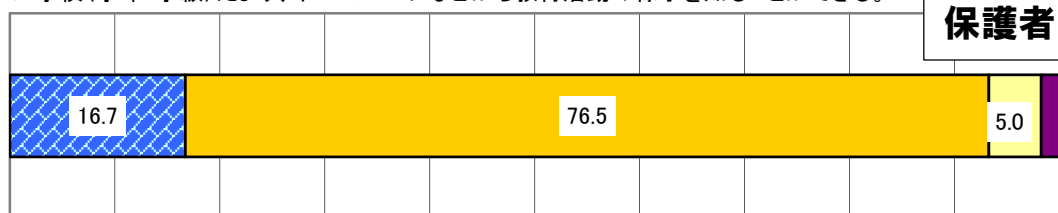
一方、保護者アンケート「1 お子さんにとって、学校は楽しいところだと思う。」「3 学校（学年・学級）だより、ホームページなどから教育活動の様子を知ることができる。」「5 授業参観や学校開放日などは、子どもの様子を知るよい機会になっている。」の学校運営に関わる質問に対して、昨年度と同様に、肯定的評価がそれぞれ90%を越えており、継続して良好な結果であるといえる。

達成状況

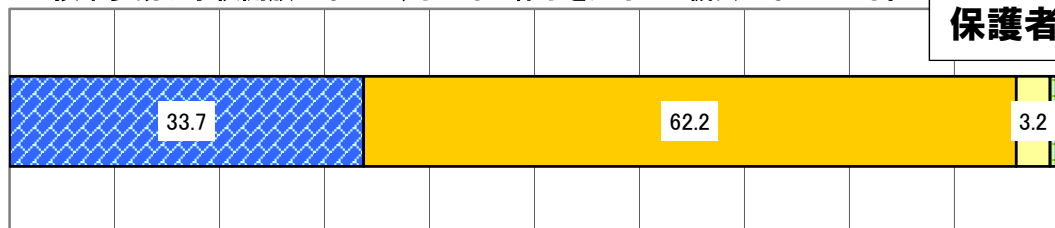
Q1 お子さんにとって、学校は楽しいところだと思う。



Q3 学校（学年・学級）だより、ホームページなどから教育活動の様子を知ることができる。



Q5 授業参観や学校開放日などは、子どもの様子を知るよい機会になっている。



改善策

自己評価結果から、危機管理等マニュアルは教育課程ファイルに収録するだけでなく、学校事故に応じて、マニュアルを分冊化したり、対応手順を示したフローチャート部分をパウチングしたりして、すぐに活用できるように工夫していく。

職員会議、校務分掌、校内研究では、課題解決にあたり、チームやワーキンググループによる組織対応を目指し、一人一人の教職員の活躍の場を増やし、意識改革を図っていく。特に校内研究は、次年度の公開研究会を見据え今年度から始めたワークショップ型研究の定着化により、教職員の主体性発揮の機会としていく。

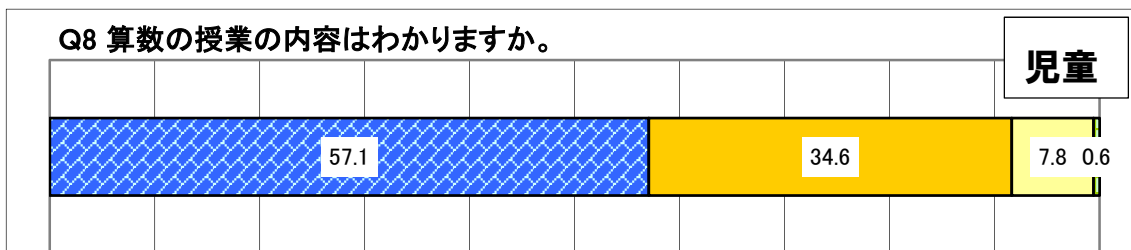
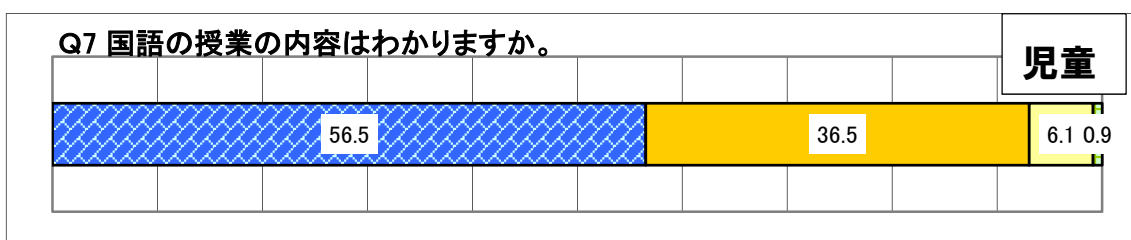
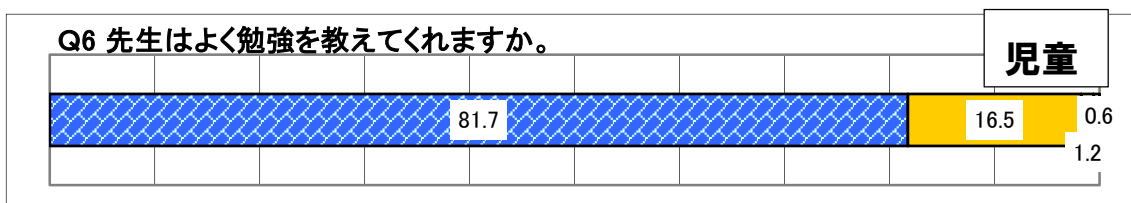
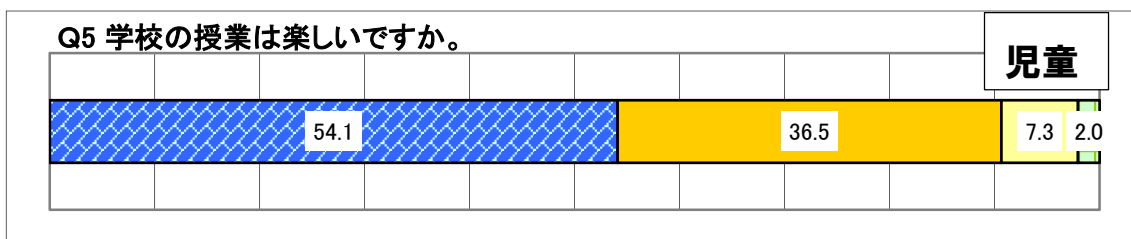
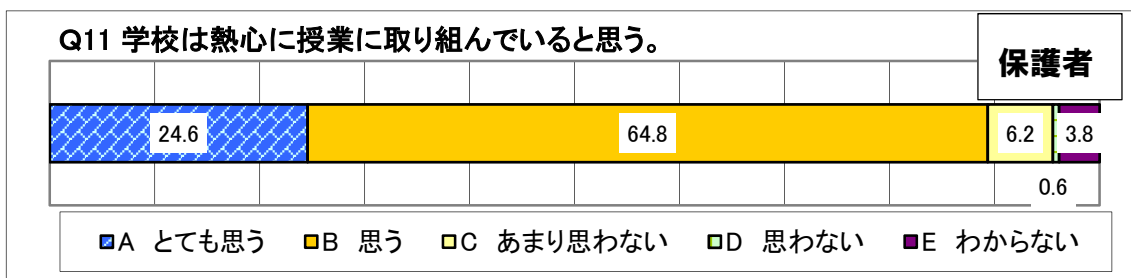
Ⅲ 学習指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）

自己評価では、10問中7問で肯定的評価（A・B）が100%となっている。残りの問についても95%以上となっていることから、教職員が、「やまなしスタンダード」を意識したり、「主体的・対話的で深い学び」を目指す校内研究の成果を授業に生かしたりしながら、授業改善に取り組んでいることがわかる。

また、保護者アンケートにおいても、「11 学校は、熱心に授業に取り組んでいると思う。」は、肯定的評価が89.4%（昨年度84.6%）となっている。C評価は6.2%（昨年度9.8%）にとどまり、これらの結果はいずれも昨年度より改善してきている。

児童アンケートでは、「5 学校の授業は楽しいですか。」の肯定的評価が90.6%、「6 先生はよく勉強を教えてくださいますか。」98.2%、「国語の授業の内容はわかりますか。」93%、「8 算数の授業の内容はわかりますか。」91.7%となり、いずれも昨年度より好結果である。

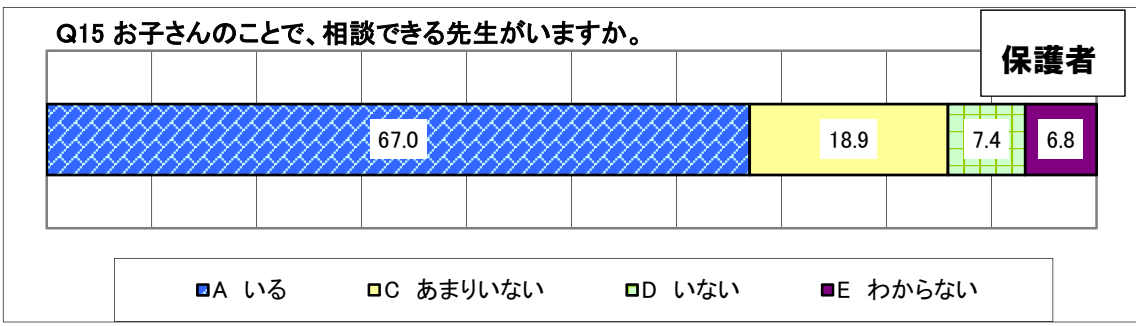
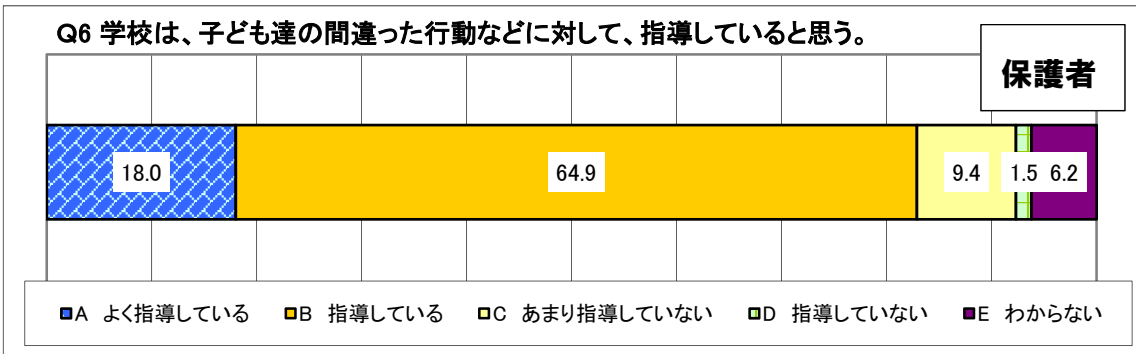
達成状況



改善策
 自己評価結果をうけて、教職員が自信をもってA回答できるようにするため、校内研究の機会だけでなく、日々の授業においても、経験豊かなベテラン教職員の授業を参考に学び合う機会を設けてOJT（実務を通しての研修）を推進していく。また、教育課程の編成作業を通して、教職員の全てが新学習指導要領の趣旨を理解し、児童が「何を学び」「何ができるようになるか」「どのように学ぶか」を意識した授業改善を行っていく。
 「授業が（あまり）わからない」と回答した児童に対しては、今後も教職員間で連携して、チームティーチングなどの個別指導に努めていく。

IV 生徒指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）

達成状況
 生徒指導についての教職員自己評価は、設問8問の全てにおいて肯定的評価（A・B）が100%となった。昨年度は、「5 あなたの学校は、職員間で生徒指導上の課題を共有した対応が行われている。」の問いが100%ではなかったため、改善を図ることができたと言える。
 保護者アンケートでは、「6 学校では、子ども達の間違った行動などに対して、指導していると思う。」「15 お子さんのことで、相談できる先生がいますか。」の設問に対して肯定的評価がそれぞれ82.9%、77.2%だった。いずれも昨年度よりは好評価を得ている。
 児童アンケートでは、「10 こまったことがあったら、相談できる先生がいますか。」の肯定的評価が82.4%、「18 地域の人と出会ったら、あいさつをしていますか。」が93.2%、「21 学校のきまりや約束ごとを守っていますか。」93.9%という結果になった。
 「朝ごはんを（あまり）食べない」と答えた児童数は23名いて、昨年度までの状況と変わっていない。



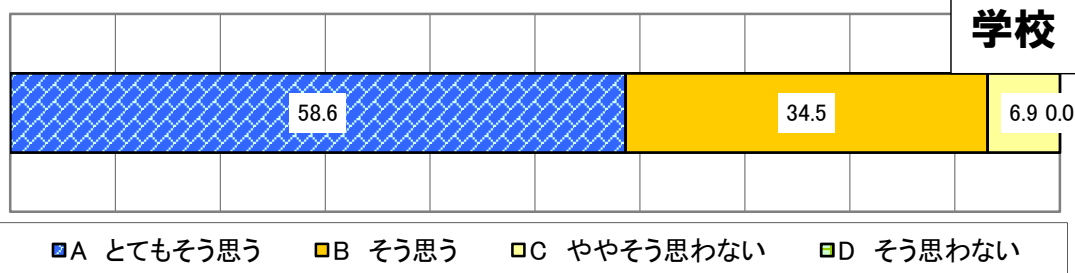
改善策
 地域の人とのあいさつなど、旗振りの保護者の方や地域の方からの声と児童アンケートの数値で異なるように感じる部分もある。職員会議の場を有効に活用して、生徒指導上の課題を教職員で共有していきたい。個々の事例の解決に向けて、校内委員会等の組織で対応できるように努め、チームで迅速に的確に解決できる体制を整えていく。事例によっては、外部のSCやSSW、民生児童委員や関係機関と連携していく。朝食を食べてこない児童への対策としては、朝食を食べることの大切さ等について保護者への啓発活動を続けていく。

V 地域との連携について

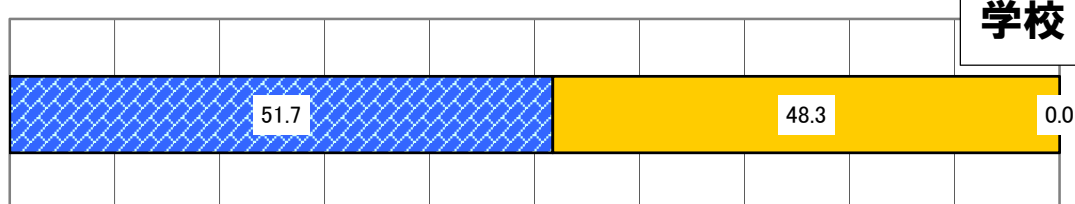
地域との連携については、自己評価9問中7問で肯定的評価（A・B）が100%であった。残りの2問も90%以上の回答であった。

一方、保護者アンケートでは、「23 学校は、保護者・地域との連携に力を入れて取り組んでいると思う。」の肯定的評価が73.3%で、昨年度（69.3%）から改善傾向にある。しかし、依然としてA評価については、11.8%と低く、教職員と保護者の意識の違いが感じられる結果となっている。

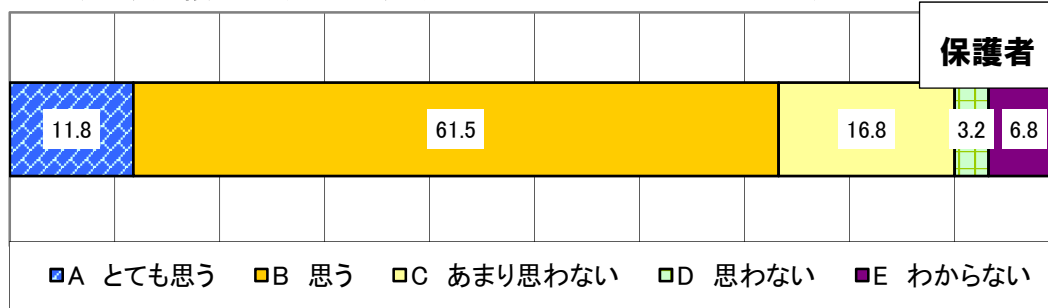
V-1 あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている。



V-2 あなたは、保護者や地域の願いに応えるため、学校に対する要望等を聞くなどの機会を設け、情報収集を行っている。



Q23 学校は、(保護者・地域との連携)に力を入れて取り組んでいると思う。



達成状況

改善策

次期学習指導要領では、「社会に開かれた教育課程」の実現を理念に掲げている。地域の中核としての学校の責務は、これまで以上に大きくなり、学校の願いだけでなく、地域の願いも汲んだ教育活動が求められる。そのためには、学校だよりやホームページ等によって保護者や地域住民に学校の願いを確実に発信していくと同時に、地域の願いを収集する機会が必要になってくる。自治会の会合等へ積極的に参加していくことも一つの手立てになると考える。

VI 学校の特色に関して

学校の特色に関する8問全てで肯定的評価（A・B）100%であった。詳細を見ると、A評価の数値は昨年度と比べると多くの問いで高くなっているが、「6 あなたは、朝学習・朝読書の充実に努めている。」「7 あなたは、家庭学習が充実するように指導に努めている。」の数値が下がっている。

達成状況	<p>VI-6 あなたは、朝学習・朝読書の充実に努めている。</p> <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">H28</div> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <tr> <td style="width: 25%; text-align: center;">■A そう思う</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">■B ややそう思う</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">■C ややそう思わない</td> <td style="width: 25%; text-align: center;">■D そう思わない</td> </tr> </table>	■A そう思う	■B ややそう思う	■C ややそう思わない	■D そう思わない
	■A そう思う	■B ややそう思う	■C ややそう思わない	■D そう思わない	
<p>VI-6 あなたは、朝学習・朝読書の充実に努めている。</p> <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">H29</div>					
改善策	<p>次期学習指導要領では、これまでの学習内容を減らすことなく、新たに外国語科、特別の教科道徳、プログラミング学習などに取り組むことになる。そのため学習時間を生み出すためには、朝の業前の時間の有効活用が求められる。次年度は、高学年では年間15時間の外国語科を朝の時間にモジュールで行う予定である。それに伴い、学校全体で毎日の朝の時間をどのように活用していくか検討し、その充実に努めていく。</p> <p>家庭学習については、家庭学習の手引きの見直し等を行い、単に家庭学習の時間だけを達成目標とするのではなく、授業と有機的に結びついた取組となるように、その質の向上について教職員間で研修を行っていく。また、PTA学年部会などの機会に、保護者への啓発を行い、協力を求めている。</p>				
3	<p>まとめ</p> <p>〈成果〉</p> <p>教職員自己評価では、どの項目も肯定的評価が高く、全体的に達成できている。全教職員が学校教育目標達成に向かい、校長の学校経営方針の下に共通理解をして教育活動にあたっていることが確認できた。児童アンケート、保護者アンケートの結果についても、昨年度に比して全体的に肯定的評価の値が高くなってきている。</p> <p>〈課題〉</p> <p>危機管理意識、職員会議等への参画意識、授業力向上、日課表を含めた教育課程の再編等について改善の余地があることがわかった。常にP→D→C→Aで教育活動に取り組むことの大切さを教職員間で再確認し、課題解決にあたっていきたい。児童アンケートにおいてDと回答する児童をゼロにすることを目指す。より個の実態に応じた教育活動ができるように教職員がチーム力を発揮して対応したり、家庭や地域の教育力を生かしたりしながら、一人一人の児童が、学校生活を送ることが楽しいと思える教育活動を推進していく。</p>				